

スーパーで香川の冬野菜「まんば」や「金時人参」を目にするようになりました。



<人間国宝 鎌倉芳太郎>



沖縄の美しい染物をご存知ですか。

草花や鳥などが色鮮やかに表現された「りゅうきゅうびんがた琉球紅型」は、南国らしい華やかな染物です。この琉球紅型と深い関係があるのが、三木町出身の型絵染作家、かまくら鎌倉よしたろう芳太郎です。

明治31年に氷上村（現三木町大字氷上）に生まれ、香川師範学校卒業後、教師として沖縄に赴任したのが、琉球文化との最初の出会いです。

土地のことは身に付け、親しく会話し、失われつつあった紅型の技法を職人に聞き取りしたり、型紙や裂地などの収集を行いました。「鎌倉ノート」と呼ばれるスケッチなどの膨大な資料と写真は、戦後の琉球文化復興に大きな役割を果たしました。現在世界遺産に登録されている首里城も、鎌倉の資料が無ければ復元が困難だったと言われています。

戦後は、自身も作家として紅型復興に力を注ぎ、昭和48年に型絵染で人間国宝に認定されました。

「紅型は、沖縄の人によって受け継がれるものである」と考え、型紙など600点に及ぶ紅型の資料を沖縄県に寄贈しています。

琉球文化に魅せられ、沖縄を愛した鎌倉芳太郎。三木町が誇る偉人です。

いもたこ



香川の人にはタコをよく食べるそうで（消費量全国1位！）酢醤油や酢味噌和え、天ぷら、おでんなどいろいろな料理で登場します。

瀬戸内海にはイダコという、大きさが5~20センチほどの小さなタコがいます。胴の部分に米粒型の卵がつまっていることからその名がついたそうです。

（本当に小さなタコで、初めて見たときはタコの赤ちゃんかと思いました。）

郷土料理「いもたこ」は、里いもとタコを醤油やみりんなどで煮付けたもので、瀬戸内海と山里の幸の美味しい組み合わせです。



いもたこ、作ってみました